

学校開校準備委員会 NEWS No.14

令和3年11月 榎尾中学校区学校開校準備委員会

第11回 学校開校準備委員会のご報告

10月15日（金）第11回学校開校準備委員会を開催しました。
今回は、榎尾中学校、横山小学校、南横山小学校の最近の取り組みや
子どもの様子などの共有を行った後、

①就学定員、②コミュニティ・スクールについて意見交換を行いました。



【主な説明内容】

1. 就学定員について

（仮称）榎尾学園では「特認校の魅力として、1クラスの人数を少人数にしつつ、クラス替えのできる学校とする」ことをめざし、

- ・ 1学級 20人の少人数学級 ※支援学級籍を含まず
- ・ 各学年 2学級を確保 ※1学年 25人以下の場合は1学級

とする方向性を示しました。

そして、少人数学級編制・各学年2学級確保していくことで、

- ①他にない少人数学級による学習環境 → 個に応じた（個を活かした）学びへ
- ②複数学級によるクラス替え可能な環境 → 切磋琢磨の機会の充実、互いを高めあい
- ③1から9年生までの多様な異学年交流 → 豊かなふれあいを創出

などを魅力とし、特認児童生徒を確保していくことを確認しました。

また、学級編制にあたっては、

- ①後期課程（中学1～3年）進級時は市費にて2学級を維持 ※現時点では、中学校は40人学級編制のため
- ②学年26～35人の場合は市費にて2学級
- ③学年25人以下の場合は、1学年1学級編制
- ④支援学級籍は地元の支援学級籍児童生徒にて学校全体で18人未満かつ2人未満の学年のみ受け入れ可とする

などの点について市から説明の後、意見交換を行いました。

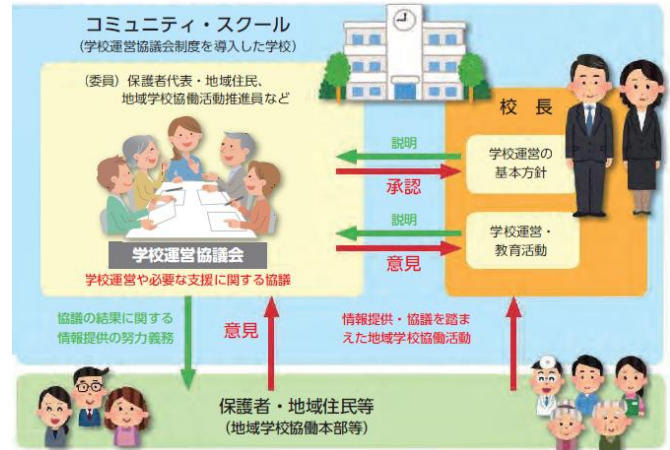
（裏面へ）

2. コミュニティ・スクールについて

コミュニティ・スクールとは、学校と地域・保護者などがこれまで以上に一体となって学校運営や子どもたちの育みについて話し合い、地域や保護者も主体的に学校運営に携われる制度を導入した学校のことです。

具体的には、保護者や地域住民などで「学校運営協議会」を組織し協働して学校運営に関わります。

(仮称) 榎尾学園もコミュニティ・スクールとすることを想定しており、今回は、その制度内容やすでに導入している南松尾はつが野学園の取組みの事例などを説明、紹介しました。



地域住民や地域保育園等と一体となった避難訓練



(南松尾はつが野学園 取組み例)

授業公開日の内容について話し合い、「いじめ」についての授業とするとともに、「みなはつピンクシャッター」として、教職員、保護者、地域など、参加者は全員、いじめを許さないという意思表示として、何かピンク色のものを着用する取組みを実施。

榎尾中学校区の各校においても、すでに学校と地域が一体となった様々な取組みを行っており、すでに、コミュニティ・スクールの素地は十分にできあがっています。今後、子どもたちが抱える課題等を地域ぐるみで解決する仕組みを構築し、さらに質の高い学校教育の実現を図るために、(仮称) 榎尾学園の開校までの間においても取組みの充実を図っていきましょう！



■ 意見

【就学定員について】

- ・1学級 20人は、先生が全体をよく把握できる設定にしていると思う。
- ・現在 22人の学級だがお互い分かり合えて、よく感じる。
- ・1学級の定員を20～25人としてもいいのではないか。
- ・1学年 60人ではどうか。
- ・20人で競争できるのは良い環境。
- ・クラス替えをさせてあげたい。2クラス設定がいい。
- ・基本は10人として、1学年20人でもいいと思う。

- ・1学年 25人の場合でも2学級にならないか。
- ・今までの南横山小学校や横山小学校、榎尾中学校では、校長や教師が全児童生徒の顔を知っているというのが魅力。

【その他】

- ・制服の導入の時期が気になる。どう進めていくのか教えてほしい。(市より)
開校前の令和5年度からの導入の検討も進めています。次回の準備委員会でも意見交換を行う予定です。
- ・部員が少ないと大会に出られない部活動もありそう。こういった視点も必要になると思う。

※ 次回は12月頃の開催予定で、内容は制服や校歌などの検討方法、工事事業者についての説明・意見交換を行います。

ニュースレターをメール配信中！

このニュースレターの受取りを希望される方は、右記QRコードを読み取っていただき、氏名、「ニュースレター希望」と記載のうえ、メールを送信してください。



【お問合せ】

教育・子ども部 教育総務課 〒594-8501 和泉市府中町 2-7-5 (TEL)0725-99-8196 (E-mail) m-junbi-iinkai@city.osaka-izumi.lg.jp